

和文送信ワークシート

1、秋の田のかりほの庵の苫をあらみわが衣手は露にぬれつつ 天智天皇

あきのたの かりほのいほの とまをあらみ わがころもては つゆにぬれつつ

2、春過ぎて夏来にけらし白妙の衣干すてふ天の香具山 持統天皇

はるすぎて なつきにけらし しろたへの ころもほすてふ あまのかぐやま

3、あしびきの山鳥の尾のしだり尾のながながし夜をひとりかも寝む 柿本人麻呂

あしびきの やまどりののをの しだりをの ながながしよを ひとりかもねむ

4、田子の浦にうち出でて見れば白妙の富士の高嶺に雪は降りつつ 山辺赤人

たごのうらに うちいでてみれば しろたへの ふじのたかねに ゆきはふりつつ

5、奥山に紅葉踏み分け鳴く鹿の声聞く時ぞ秋は悲しき 猿丸大夫

おくやまに もみぢふみわけ なくしかの こえきとときぞ あきはかなしき

6、鵜の渡せる橋に置く霜の白きを見れば夜ぞ更けにける 中納言家持

かささぎの わたせるはしに おくしもの しろきをみれば よぞふけにける

7、天の原ふりさけ見れば春日なる三笠の山に出でし月かも 安倍仲麿

あまのはら ふりさけみれば かすがなる みかさのやまに いでしつきかも

8、わが庵は都のたつみしかぞ住む世をうち山と人はいふなり 喜撰法師

わがいほは みやこのたつみ しかぞすむ よをうちやまと ひとはいふなり

9、花の色は移りにけりないたづらにわが身世にふるながめせし間に 小野小町

はなのいろは うつりにけりな いたづらに わがみよにふる ながめせしまに

10、これやこの行くも帰るも別れては知るも知らぬもあふ坂の関 蝉丸

これやこの ゆくもかへるも わかれては するもしらぬも あふさかのせき